

重点取組分野	令和 4 年度		総括	重点取組分野	令和 5 年度		総括	重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
授業改善 個に応じた指導	授業改善:基礎基本の定着を図り、分かる楽しい授業作りを進め、どの児童も楽しんで参加できる主体的・対話的な授業作りを実践する。 個に応じた指導:個に応じた問題解決の支援を行う。	どの学年も子どもたちが主体的・対話的に取り組めるような授業作りを努めた。授業研究の時間をこれまでより多くとり、授業計画、発問、板書計画、教材、教具の工夫をしたり、iPadを効果的に活用した授業作りをしたりした。一方で個に応じた指導、基礎基本の定着に課題が残るため、引き続き授業改善を進めていきたい。	B	授業改善 個に応じた指導	授業改善:基礎基本の定着を図り、分かる楽しい授業作りを進め、どの児童も楽しんで参加できる主体的・対話的な授業作りを実践する。 個に応じた指導:個に応じた問題解決の支援を行う。			授業改善 個に応じた指導	c1		
道徳教育	①めあてを掲示するなど、児童が自分の役割を意識して活動するための具体的な手立てを講じていく。 ②道徳の時間に、日常生活の経験を振り返ったり、学習の総合化を図ったりすることで、友達と協力して互いの良さを認め合う機会を増やす。	①学習のめあてを児童と考えるなど、児童が主体となって学習を進めることができるよう努めた。児童が自分の役割を意識して取り組むための具体的手立てについては、学年等で話しあって改善を進めていきたい。 ②道徳の時間では、導入で日常の経験を想起させたり、行事や各教科の学習内容と関連づけて単元計画を立て、実践することができた。互いの良さを認める機会については、今後も学校生活全般で継続してつよようにしていきたい。	B	道徳教育	①行事等では、個々のめあてを決め、掲示することで、児童が自分の役割を意識して活動できようとし、それに応じた具体的な手立てを講じていく。 ②道徳の時間に、日常生活の経験を振り返ったり、学習の総合化を図ったりすることで、友達と協力して互いの良さを認め合う機会を増やす。			道徳教育	c2		
健康教育	①体育の授業・運動委員会主催の体力アップ動画等を通して、日常的に体力づくりに取り組めるような啓発を行う。 ②保健の授業・学校保健委員会の取組、給食指導を通して、生活習慣を見直そうとする態度を培う。	①休み時間や放課後等の児童の過ごし方として、授業で取り組んだ運動を授業の時間外でも進んで行う様子を見たり聞いたりする機会が増えたと感じている。今後も魅力的な授業を通して運動の日常化につなげていきたい。 ②日々の指導や学校保健委員会の取組を通して、アルコールに頼らない、石鹸を使った基本的な手洗いの習慣が身につけてきた。食育や保健の授業では、栄養職員や養護教諭等に資料提供や授業への参加をお願いするなどの工夫の余地があると感じている。また給食指導では、各担任の日々の教室での声かけによる効果が実感でき、日々の声かけや指導の大切さに改めて気付かされた。	B	健康教育	①体育の授業・運動委員会主催の体力アップ月間等を通して、日常的に体力づくりに取り組めるような啓発を行う。 ②保健の授業・学校保健委員会の取組、食育を通して、健康的な生活への意識づけを行う。			健康教育	c3		
自分づくり教育	①生活科「横浜の時間」を中心に、身近な人や地域の人と関わりながら体験的・課題解決的な活動に取り組み、互いのよさを認め合い自己有用感を高めるようにする。	①低学年は生活科で商店街などを中心に関わりながら、地域の人々の温かさや仕事への思いなどを感じることができた。また高学年では、様々な企業や地域の人々との関わりを通して自己の生き方を見つ直す機会を設けることができた。今後の課題としてはより地域のいろいろな人と関わりながら、人の役に立つよさを感じられる活動ができるようにしていきたい。	B	自分づくり教育	①生活科「横浜の時間」を中心に、身近な人や地域の人と関わりながら体験的・課題解決的な活動に取り組み、地域社会の一員として主体的に生きようとする児童の育成をめざす。 ②ななよし活動を通して、異学年と交流するなかで、自分の役割に気付いたり、互いのよさを認め合ったり、自己有用感を高めるようにする。			自分づくり教育	c4		
いじめへの対応	①月1回の定期開催の他に、未然防止と実態把握を確実にするために、年数回のアンケートを適切な時期にとり、日々の情報交換を密にして、早期発見、対応を旨とし、積極的に支援検討会を開く。また、いじめ防止に向けた目標等を協議し活用していく。 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、いじめ防止を意図的に授業に取り組みすることで、だれにとっても居心地のよい学校づくりを進める。	①学年、専任、管理職と情報交換を密にして複数で対応したり、定期的なアンケートをとったりすることで、早期発見、早期解決につなげることができた。 ②いじめ防止研修では、再度いじめの定義について全職員で確認し、いじめを見抜く豊かな人間性と高い人権感覚を身につけることができるよう実施して職員意識を高めた。また、日頃の学習活動を通じて、いじめは絶対にしてはならないことを理解し、よりよい人間関係作りについて考え、安心して学校生活を送れるように取り組んだ。	A	いじめへの対応	①月1回の定期開催の他に、未然防止と実態把握を確実にするために、年数回のアンケートを適切な時期にとり、日々の情報交換を密にして、早期発見、対応を旨とし、積極的に支援検討会を開く。また、いじめ防止に向けた目標等を協議し活用していく。 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、いじめ防止を意図的に授業に取り組みすることで、だれにとっても居心地のよい学校づくりを進める。			いじめへの対応	c5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた研究・研修を計画、実施し、学び続ける姿勢を大切にすること。 ②仕事の効率化を図る業務改善の見直しと改善に取り組み。チーム力を生かした学年・学校運営を充実させ、教育効果を上げながらも働き方改革を進める。	①初任研やメンター研、重点研などそれぞれの授業について学年で共同で研究しながら授業力向上に努めることができた。また、特別支援の研修や総合の働き方など、授業以外の研修を充実させることができた。 ②会議資料の閲覧方法を変更したり、次年度に向けて会議の時間短縮ができるように検討したりした。また、魅力ある学校づくりに向けて学年研の時間を充実させ、学年事務や教材研究を行うことができた。	B	人材育成・ 組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた研究・研修を計画、実施し、学び続ける姿勢を大切にすること。 ②仕事の効率化を図る業務改善の見直しと改善に取り組み。チーム力を生かした学年・学校運営を充実させ、教育効果を上げながらも働き方改革を進める。			人材育成・ 組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育部会を定期的に開催し、情報共有を進める。 ②特別支援教育研修を実施して、全教職員の特別支援に対するアンテナを高くするとともに、支援を要する児童への効果的なアプローチを継続して行う。	①支援を要する児童について、学年で情報共有をして、学校全体で対応することができた。 ②学校全体として、特別支援に対するアンテナが高まってきていると感じる。今後もさらに研修を通して意識を高めていきたい。	B	特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育部会を定期的に開催し、情報共有を進める。 ②特別支援教育研修を実施して、全教職員の特別支援に対するアンテナを高くするとともに、支援を要する児童への効果的なアプローチを継続して行う。			特別支援教育	c7		
児童指導	①「ルール&マナーブック」を見直したうえで、全職員で内容の共通理解を図り、指導にあたり、各学級でも生活目標の取組に合わせて子どもと一緒に確認する。また必要に応じて確認する。 ②年間行事をもとにめあてを精選し、各学級で子どもたちが自分たちの学校生活を見直せる機会を設ける。	①「ルール&マナーブック」があることで、児童への指導をどの学級も同じように行うことができた。また、ルールが明記されていることで指導のしやすさがあった。 ②生活目標が2か月に1回になったのでゆとりをもって活動に取り組めた。まためあても精選されて、1つのめあてをしっかりと意識することができた。	A	児童指導	①「ルール&マナーブック」を見直したうえで、全職員で内容の共通理解を図り、指導にあたり、各学級でも生活目標の取組に合わせて子どもと一緒に確認する。また必要に応じて確認する。 ②年間行事をもとにめあてを精選し、各学級で子どもたちが自分たちの学校生活を見直せる機会を設ける。			児童指導	c8		
地域学校協働活動	①コロナ禍の中でも様々なツールを活用して学校の様子を発信するとともに、地域との連携も模索していく。また、学校運営協議会と連携して、できる活動を行っている。 ②地域やその他の人との関わり方を工夫し、自分らしい生き方やあこがれる生き方について考えることができる教育活動を実践する。	①今後もホームページや学校だよりなど、学校の様子を発信するとともに、コロナ禍のため学校運営協議会との連携は行われなかったため、今後もできる活動を模索しながら行っていく。 ②どの学年も地域や企業等、様々な方を招いて関わりながら授業を行った。今後も継続して実践していく。	A	地域学校協働活動	①コロナ禍の中でも様々なツールを活用して学校の様子を発信するとともに、地域との連携も模索していく。また、学校運営協議会との連携も模索していく。 ②地域やその他の人との関わり方を工夫し、自分らしい生き方やあこがれる生き方について考えることができる教育活動を実践する。			地域学校協働活動	c9		
a15	a25			a15	b10			a15	c10		
ブロック内 評価後の 気付き	今年度は、万騎が原中学校ブロック内で、小中交流会などの授業公開を3回行うことができた。その後も各教科部会などで集合して話し合いをもつことができた。数年ぶりに小中職員全体としての情報共有が少しずつ行えたことが成果である。また、教務主任会、児童支援専任会などを通して、学校運営や児童支援・指導の情報交換を行うことができた。その中で、ICT機器の活用、授業などのライブ配信について、ブロック内でどこまでそろえていくのか、共通認識や今後の活用方法の検討が必要であると思われる。今年度で3年目を迎えるキャリアパスポートについては、少しずつではあるが、子どもたちがキャリアを積み上げられていると感じている。今後の課題としては、アフターコロナを見据えて、子どもたちの成長や児童指導にどのように生かしていくべきか、地域連携をどのように再構築していくかが課題である。			ブロック内 評価後の 気付き				ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価	学校運営協議会委員に学校の現状を書面でお伝えした。			学校関係者 評価				学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り	コロナ禍の中での教育活動も3年目となり、児童も教職員も感染症対策を行いつつ、これまでの経験を活かしながら、今できる教育活動に取り組むことができた。3年ぶりの日光修学旅行をはじめ、宿泊学習や校外学習の実施や二小運動会・音楽会の実施は、児童の主体性、自主性を育てる上で大切な取組となった。学習面では魅力ある授業づくりやタブレットを活用した授業などを進めることができた。児童指導においては、引き続き教職員による児童の丁寧な見取りや組織的な対応により、いじめなどの未然防止、早期対応・解決を図ることができた。令和5年度は創立150周年の取組や校舎建替え工事の対応、この3年間ほとんど実施できていない地域との交流が課題である。			中期取組 目標 振り返り				中期取組 目標 振り返り			